

平成29年度 瑞穂野中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

【基本目標】人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

【具体的な生徒像】

- ・心身ともに健康で、気力あふれる生徒
- ・自ら学び、創造性に富む生徒
- ・勤労を尊び、責任感のある生徒
- ・思いやりがあり、心豊かな生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

生徒が互いの個性を認めつつ、学習や行事、部活動などに目的をもって取り組む中で、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高めようとする生徒を育成する。

そのために、教職員は自己に与えられた使命を自覚し、自己研鑽に励み、ひいては保護者や地域から信頼される学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）生徒が安心して自分の成長と向き合うことができる公正で温かな学校づくりに努める。
- （2）教職員は自己の使命と責任を自覚するとともに、常に自己研鑽に励み、専門職としての力量を高める。
- （3）多様な生徒の存在を認識しつつ、生徒との人間的な触れ合いを深め、人権感覚を磨きながら生徒理解や指導方針に基づく指導を推進する。
- （4）学校課題を明確化し、課題解決に向けて組織的に取り組む。
- （5）生徒の社会的自立を促すために、創意ある教育課程の編成に努める。（キャリア教育の視点）
- （6）○9年間を通して、生きる力をはぐくむ小中一貫教育の最終段階として、学びを広げ深められる環境を整える。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】9年間の連続した学びの中で「生きる力」を育てる小中一貫教育

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- （1）学校運営
 - ・全職員が取り組むべき学校の課題を共通認識し、課題解決のために組織的に対処する。
 - ・業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。
 - ・学力を高めるためのカリキュラム・マネジメントを行っていく。
- （2）学習指導
 - 論理的に考え、思考を深めあう学習活動の推進
 - 自主学习（家庭学習）習慣の定着を目指した指導の実践
 - つまずきに気づき、克服させる振り返り活動を取り入れた学習指導の実践
 - ・学校課題に即した研究授業の実践
 - ・読書好きの生徒を増やすための読書指導の充実
- （3）心豊かな生徒の育成と道徳実践力の向上
 - ・道徳の教科化を念頭においた指導法の研究
 - 学校園の重点目標に沿った小中9年間を見通した系統的で重点的な指導
 - ・指導資料の改善と指導資料の累積
- （4）生徒指導
 - ・いじめがおきない、不登校を出さない指導の展開
 - ・校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
 - ・SC、SSW、関係諸機関との連携
 - ・規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立
 - ・全ての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進
- （5）健康（保健安全・食育）・体力（元気アップ教育に係る取組を含む）
 - ・定期健康診断・元気っ子健康体力チェック等の結果の有効活用
 - ・健康教育・食育を通じた望ましい生活習慣の確立
 - ・体力向上を目指した部活動の推進
 - ・交通安全指導の徹底

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 90%以上	・リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的活動を積極的に取り入れ、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを行う。 ・学級経営や教育相談を充実させ、心の通じ合う「居がい」のある活気に満ちた学校づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.4%であり、数値目標に達した。学校行事や生徒会行事等で、生徒が積極的に活動していた。 【次年度の方針】 ・生徒にとって居がいのある学校づくりを目指し、より魅力的な教育活動の推進に努める。 ・朝会等において各種委員会の活動を発表し、自治的な・自立的な雰囲気を醸成する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 ◎保護者の肯定的回答 80%以上	・教職員の情報交換や連携を密にし、些細な問題に対しても共通理解の下、迅速かつ誠実に対応するよう心がける。 ・どの生徒にも活躍の場を設定し、生徒のよいところを認め、褒めることで自尊感情を育む教育の一層の推進を図る。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 84.6%であり、数値目標に達した。昨年度より、13.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員の意識の向上を図り、組織的かつ効果的な指導体制の充実に努める。 ・生徒理解の場を設定し、教職員と生徒との良好な関係を維持するとともに、研修等で教職員の資質の向上を図る。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・きまりの教室掲示を行い、時間を守る、身の回りの整理整頓や状況に応じた礼儀・態度など、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、登下校時における交通マナーの徹底化に取り組む。 ・「学習のきまり」の指導を、教職員が共通実践するとともに、授業を工夫・改善することで、生徒が日々の授業に真剣に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 85.7%、生徒が 88.9%で、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・教職員が率先垂範の姿勢で行動するとともに、生徒会を中心とした取組により、意識の向上を図り、生徒の主体的な活動を促していく。 ・生徒自ら進んで考え判断し行動できる資質を身に付ける場と機会の設定に努める。
	A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 80%以上	・「分かる授業」を目指したミニ研究授業や相互授業参観を行ったり、一人一人に適切な課題の提示を行ったりするなど、個々の教員の指導法の改善に努める。 ・ＴＴや習熟度別学習の効果的な活用や、特別支援教育の充実等を通して、きめ細かな指導を行う。 ・家庭学習やドリル学習などの指導を通じて、基礎学力を定着させる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.1%であり、数値目標に達したが、保護者は昨年度を 10.4 ポイント上回ったが、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・生徒にとってより分かる授業を目指し、教員の授業向上の取組を充実させる。一人一授業をさらに推進し、教員相互が授業を見合う取組を一層充実させる。 ・いつでも質問できる雰囲気づくりに努め、個に応じた学習指導を行う。
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 90%以上	・瑞穂野中学校いじめ防止基本方針をもとに、全校体制でいじめ撲滅、防止の指導を徹底する。 ・学級目標、いじめ０強調月間、人権週間における「クラス宣言」等、学級・学年・学校の取組を充実させ、諸たよりで広く発信する。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.1%であり、数値目標に達した。保護者も昨年度を 11.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・いじめ０強調月間や人権週間の取組をさらに充実させ、学校公開に合わせて実施するなど、学校の取組を広く周知する。

	A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 ◎教職員の肯定的回答 90%以上		・週案、週報、月報により教育課程実施状況を定期的に確認し、授業時数の確保に努める。 ・企画委員会や主任会で共通理解や連携を深め、日課・授業・学校行事等を適切に運用する。 ・事後アンケートの実施し、成果と課題を明確にし、次年度に生かせるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・目標を明確にした教育活動の推進に努めるとともに、地伍夫評価や生徒の相互評価などを活用し、より効果的な運営を行う。
	A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上		・各種だより、学校ホームページ、メール配信システムなどを活用し、学校情報を積極的に発信する。 ・オープンスクールや学校行事等を通し、保護者や地域住民に積極的に学校生活の様子を公開する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 90.5%、地域住民が 100%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・ホームページを活用した情報の発信をさらに充実させるとともに、保護者や地域住民が学校には足を運べる学校公開を検討する。
	A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上		・魅力ある学校づくり協議会を活性化させ、学校をより開かれた場所にするとともに、地域の教育力を取り込んでいく。 ・地域協議会や保護者との連携を深め、学校行事や学習などで外部ボランティアや外部講師の活用を推進する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 90.4%であり数値目標に達したが、生徒は 83.9%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・地域学校園での取組を一層充実させていくとともに、魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力のもと、学校支援ボランティアの充実を図る。
	A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 90%以上		・汚れた箇所をチェックし、集中的に清掃を行う。 ・教室や廊下の掲示物が古いままになっていないかなど、確認し改善を行う。 ・学習に集中できるよう教室内の掲示物を、工夫改善する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.6%で、僅かながら数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・学校緑化に力を入れ、生徒が主体的に進める潤いのある環境づくりに努める。 ・生徒の学習につながる廊下や教室の掲示を行い、よりよい学習環境を創出する。
	A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ◎保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上		・小中 9 か年間を通した基礎的な言語能力の育成や心の教育を継続的・系統的に行う。 ・「みずほのあいさつ運動」や「ホテルの飼育」での地域住民との交流を通して、地域の特徴について理解を深め、地域愛を育てる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 90.4%、地域住民が 100%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域学校園で行うあいさつ運動やホテルの飼育をさらに充実させ、地域の特色ある教育活動として推進する。
教育活動の状況	生 活	A 11 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 ◎生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	○生徒会によるあいさつ運動を推進し、あいさつに対する意識を高める。 ・学校園でのあいさつ運動を推進する。 ・時と場所に応じた適切なあいさつの仕方について、随時指導する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 96.4%で数値目標に達したが、保護者は 83.3%で数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・校内や地域学校園のあいさつ運動を充実させるため、地域協議会やPTAとの連携をより進めたあいさつ運動の推進し、生徒があいさつしやすい環境をつくるとともに、あいさつの習慣化を図る。

		A12 生徒は、正しい言葉遣いをしている。 【数値指標】 ◎保護者・生徒の肯定的回答 85%以上	・教職員自らが学校生活で常に正しい言葉遣いを意識し実践する。 ・すべての授業で、正しい言葉遣いを指導する。 ・人権感覚を高める指導を継続して行い、朝会や集会、学級活動等で生徒への啓発を行う。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 93.9%、保護者が 85.9%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒間の日常的な言動にも注意を向け、時と場に応じた言葉遣いや敬語の指導を心掛けるとともに、家庭や社会生活での言葉遣いについても、意識して生活できるよう指導していく。
		B1 学校はいじめのない明るく楽しい雰囲気づくり、人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 ◎保護者・生徒の肯定的回答 80%以上	・教科・領域等で体験学習を年間計画に位置付け、実践する。 ・生徒会が中心となって「いじめ撲滅キャンペーン」を展開する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が91.0%で数値目標に達した。保護者は昨年度を 6.2 ポイント上回る 78.3%であったが、数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・「学校いじめ防止基本方針」の改定を受け、いじめ対策を更に強化し、学校のホームページ、学校だより、保護者会等で積極的に周知・説明していく。
	健康・体力	A13 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 80%以上	・元気っ子健康体力チェックの結果をよく理解させ、自己の体力を増強させるため、積極的に昼休みに運動したり、部活動（運動）に参加したりするように指導する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 85.3%、教職員が 82.1%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・教科体育において、正しい運動の技能を身に付けさせるとともに、運動の楽しさや喜びを味わわせる。 ・学校行事や部活動で積極的に運動にかかわらせ、生涯にわたり継続してスポーツに親しむ素地づくりに努める。
		A14 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・給食だより、保健だよりの発行を通じて、食育に関心をもたせ、さらには栄養摂取の大切さを理解させる。 ・「お弁当の日」の指導を通じて食に対する意識をもたせる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が昨年度を 13.3 ポイント上回る 89.3%であり数値目標に達したが、生徒は 83.9%であり数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・食育だより、保健や家庭科の学習を通じた栄養指導、生活習慣の指導により、自分の食生活を見直し改善していける生徒を育てる。 ・地域学校園で取り組む「みずほの献立」「学校園食育だより」「一口メモ」「お弁当の日」等を今後も継続し、食への関心を高めていく。
	学習	A15 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・すべての教科・領域で発表力を高めるための授業を意図的・計画的に行う。 ・発表力を高めるための授業方法について、校内研修会や自主的な研修を通じて研究し、共通理解を図る。 ・授業中のルールを確立させる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 78.6%であり数値目標に達しなかった。生徒は 85.7%であり数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒が意欲的に授業に取り組める授業改善を行い、学び合いによりグループ内での発表力を高め、学級全体での発表力向上につなげる。
		A16 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 80%以上	・チャイムと同時に授業が開始できる体制を確保する。 ・落ち着いて学習に取り組めるよう、黒板周囲の掲示物の整理など特別支援教育的な配慮をした教育環境の整備に努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 92.9%、生徒が 81.4%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・学習の約束を守り、落ち着いて学習に取り組ませるとともに、学習のねらいの提示と振り返りを毎時間行い、学習指導の充実を図る。

本校の特色・課題等	B2 生徒は自主学習ノートに前向きに取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・毎日の提出状況を組織的にチェックし指導を加えることで、取組の習慣化を図る。 ・家庭学習の習慣化を通して、基礎学力を習得させていく手立てをさらに充実させる。 ・生徒会の学芸委員会を通して、優秀な取組を紹介・表彰することで生徒の意欲を高める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 92.9%、生徒が 98.2%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・毎日自主学習ノートを提出できてきているが、内容には課題が多いことから、素晴らしい取組をしている自主学習ノートを積極的に紹介し、よりよい家庭学習の進め方や方法を広く周知する。
	B3 生徒は朝の読書にまじめに取り組んでいる。 【数値指標】 ◎教職員・生徒の肯定的回答 90%以上	・朝の学習の時間の十分な確保と、図書館教育と連携した読書環境づくりを進める。 ・学校図書館の読書活動支援における、読書センターとしての機能をさせる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 98.2%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・今後も生徒が主体的に読書に取り組める環境整備に努めるとともに、生徒の読書活動の支援の在り方を検討する。
	B4 教職員は、地域のよさを自覚し、郷土への親近感ももてる生徒を育成している。 →地域の行事への生徒の参加等を支援し、地域の方々とのふれあいを通して、そのよさを自覚し、郷土を愛する心情を育てている。 【数値指標】 ◎保護者の肯定的回答 80%以上	・総合的な学習の時間における地域の方々とのふれあいを通して、地域に積極的に目を向けさせる。 ・PTAや地域行事への生徒の積極的な参加を促し、瑞穂野のよさを再認識させる。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 83.1%で、昨年度を 4.7 ポイント上回り数値目標に達した 【次年度の方針】 ・今後も地域との関わりの中で、地域行事への積極的な参加を促し、地域貢献できる生徒の育成に努める。年間を通したボランティア募集の予定の提示をもとに、計画的に参加できるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者評価が大きく改善した。昨年度との比較で、肯定的な評価が 10 ポイント以上上回った項目が 3 項目（A2－熱心な指導、A4－学習指導、A5－いじめ対策）、5 ポイント以上上回った項目が 6 項目あり、その他の項目も A3－マナーを守る以外は全て昨年度を上回った。今年度の教育活動が全般的に好意的に受け入れられていたと言える。
- 今年度より評価項目に加わった A10－小中一貫教育については、保護者・地域住民・教職員とも 90%を越えているが、生徒評価は 70%を下回っている。多くの小中一貫教育での取組が、生徒には十分認識されていないのではないかと考えられる。
- ・自主学習ノートの取組については、昨年度との比較で保護者・生徒共に 5 ポイント以上上回った。家庭で自主的に学習に取り組む習慣が、保護者の目から見てもはっきりと分かる形で表れてきていると言える。
- ・教職員評価において、A11－あいさつが昨年度と比較して 10 ポイント以上上回った。本校の生徒はあいさつがよくできているという高い評価に変わりはないが、教職員の転出入等によりあいさつがよりしっかりできている学校と比較が生まれ、まだ指導の余地があるとの認識が生まれたのではないかと考える。
- ・A1－活気がある、A6－教育課程、A7－情報公開の 3 項目は、全て 90%を越えている。どの立場から見ても高い評価であることから、現在の取組を改善しつつ継続していきたい。

6 学校関係者評価

- ・学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気であるのは、生徒にとって大切である。今後も今の取組を継続し、今の雰囲気を大切にしていってほしい。
- ・毎日の学校生活を送っている生徒の評価が最も大切である。20 項目中 19 項目で昨年度を上回っていることから、現在の取組を継続していってほしい。
- ・不登校対策については、多様な働きかけが必要である。更なる取組を検討していってほしい。
- ・今後学校評価から問題点を分析し、柔軟な対応していってほしい。
- ・いじめ対策について保護者の評価が低いのは、もっと情報を発信していくことが必要である。PTA・地域協議会合同で親学講座等を開催してけるとよいのではないだろうか。

- ・あいさつは、保護者・地域住民がもっと積極的に学校関わることも必要である。
- ・アルミ缶回収等学校で行っているボランティア活動が、地域と一体となった取組になっていくとよいのではないかな。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者評価が大きく改善したとはいえ、教職員への評価はまだ厳しいことから、分かりやすい授業と一人一人へのきめ細かな指導を行うために、相互授業参観や授業研究会、指導法を研究する研修会を開き、授業の工夫・改善を進めていきたい。特に、道徳の時間の教科化に向けて取組に力を入れていきたい。
 - ・いじめ対策については、「学校いじめ防止基本方針」の改定を受け、生徒指導、教育相談、危機管理マニュアル、校務運営規定等の整合性を図り、保護者、地域住民への十分な周知・説明を行う。
- 小中一貫教育については、直接関わる生徒の意識を高めるための方策として、様々な取組が小中一貫教育との関連を常に意識させるようにしていきたい。
- ・保護者・地域住民への情報発信は、直接学校に足を運んでもらうことが一番である。土曜授業やオープンスクールの実施方法について、来校者がより増える方法を検討し実施していきたい。